水

宮川の源流と分水嶺

みやがわのげんりゅうとぶんすいれい

(1) 水のふるさとを訪ねて

宮川の清冽な湧水は、位山と川上岳を結ぶ峰と、それらを結ぶ尾根の裾地から流れ始めます。東や南の絶壁の裾山、下方から湧き出す水は、ツメタ谷となって渓谷の源流となります。そして川上岳の山のふもと近くの、なだらかな丘地の水を集めたヌクイ谷の温かい水と合流します。その流水が一之宮町の盆地までの源流・渓谷をつくりだしています。

(2) 水のあるくらし

人間の生活には、水と食料、住居や衣類などは欠くことのできない大切なものです。その中でも水源となった宮川は、古来から飛騨の人々の、生命綱でした。それぞれの用水路を通り、農業、防災、飲料水となって村人の生活を守ってきました。

川のゆくえ

かわのゆくえ

(1) 源流から日本海

中部日本の分水嶺であり神通川水系の最上流に位置する源流の里「飛騨一之宮」。そこに源を発する宮川は、古来より人々をはじめ、あらゆる命を潤し続けた母なる川なのです。

(2) 川の移り変わり

宮川の源流は、川上岳で、位山の餅谷と合流して宮盆地へ流れています。川上岳の北東の位山 1530mの尾根の下で渓流源流になります。手をつっこむと、夏真っ盛りの暑い陽ざしの中でも手を切るような冷たさで、古代に「ツメタ谷」と名づけられました。

動画：宮川源流 （自然：飛騨一ノ宮）

0:19min

岐阜県高山市一之宮町にある宮川源流の映像から源流の様子について学べます。一本の原生林から水が川へと流れていく様子がうつされています。

URL　http://hkl.gijodai.ac.jp/material_jyugyo.html

宮川と昔話

みやがわとむかしばなし

(1) 座禅石

むかし、大幢寺を開かれた高山の雲竜寺の開山了堂真覚和尚が、寺の前にある座禅石に座ってお経を読むのを毎日のつとめにしていました。その座禅石は、今でも大幢寺の前に大切に保存されています。

（2）バイカモ（梅花藻）

飛騨一之宮町にはバイカモ（梅花藻）があります。このバイカモは平成１６年の台風でほぼ全滅しましたが地元住民の手で復活しました。（バイガモを守る会）

「あじめ」を守る

あじめをまもる

「あじめ」は、条鰭綱コイ目ドジョウ科アジメドジョウ属に属する魚で、日本固有種です。晩秋、伏流水中に潜り越冬します。越冬は群れとなって行われ、地中数メートルも潜ることがあります。産卵は越冬中に行われ、稚魚は親と共に翌年5～6月に姿を現わします。